

# 編修趣意書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
27-6	高等学校	公民科	倫理	1～3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教科書名		
81 山川	倫理 309	現代の倫理 改訂版		

## 1. 編修の趣旨及び留意点

- 先人のさまざまな言葉や体験に触れ、それらを手がかりにして、人間としての在り方・生き方について主体的な思索を深め、生徒一人ひとりがみずからの人生観・世界観・価値観を形成できるように留意した。
- 生命への畏敬をベースにして、民族・宗教・思想・文化の違いを超えて、命あるものを慈しみ、敬い、尊ぶヒューマンな姿勢をより明確にするよう努めた。
- 自己の生命が、単なる自分の所有物ではなく、他の生命や自然との大きなかかわりの中から贈られ、そこで生かされているものであるという視点を導入し、自他の命の平等と、相互性の自覚を重視した。
- 他者と共に生きること、他者や集団や社会とのかかわりをとおした自己の確立、つまり人間の自己形成の条件となる、主体性と社会性の不可欠性を重視した。

## 2. 編修の基本方針

- 心身ともに、成長過程の高校生が、他者とのかかわりの中で生き方を模索するとともに、自己の生きがいを見つける手がかりとなるように、高校生の目線に立って編修した。そのために、まず自己の内面を見つめなおすことをうながし、その上で先人の思想を紹介した。
- 多様な個性をもった生徒が、関心をもって読めるように題材を工夫し、ポイントをしばって簡明に叙述し、語りかけるような平易な文章で表現した。

## 3. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
第Ⅰ部 青年期と自己の課題 第1章 青年期と自己の探究	青年期に抱く悩みや疑問、不安に具体的に寄り添い、それらを手がかりにして、人間としての在り方・生き方について主体的に考えを深められるように留意した(第1号)。	5～14ページ
第2章 自己と他者	他者と共に生きることについての自覚を深め、他者・集団・社会との主体的なかかわりを通して、自己を確立する道について思索できるように留意した(第2号)。	15～19ページ
第3章 生命と自然との出会い	生命に対する畏敬の念をもとに、命あるものを慈しみ、畏れ、敬い、尊ぶ態度を養うとともに、みずからの生命があらゆる他の生命とのかかわりや、自然の営み、地球の環境の中で生かされていることを自覚できるように留意した(第4号)。	20～24ページ

第Ⅱ部 人間としてのあり方・生き方 第1章 人間としての自覚	先人の言葉や思索，美術作品などを取り上げ，倫理的思索の動機付けになるよう工夫した（第1号）。	25～70ページ
第2章 世界の中の日本人	日本人の伝統や文化に根付いた倫理観に触れることをとおして，日本人としてのアイデンティティを確立し，日本人としての誇りをもつとともに，国際社会の平和と繁栄に貢献する日本人の責務についての自覚を高めるように留意した（第5号）。	71～116ページ
第Ⅲ部 現代社会と倫理 第1章 現代社会を生きる倫理	未来を見つめ，すべての人が人間らしく，平和で幸福に生きられる世界をめざした先人たちの思想や行動を教材として取り上げた（第3号）。 労働についての問題点を明らかにし，人間らしく働ける社会をめざした思想を取り上げた（第2号）。	117～176ページ
第2章 現代の課題と倫理	現代の課題は「国際平和と人類の福祉」を取り上げ，地球に生きる一員としての責任を自覚できるように留意した（第3号）。 また「世界の文化と宗教」では，寛容の精神を身に届けけるように留意した（第5号）。	177～203ページ

#### 4. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- 文学作品・美術作品・映像作品・音楽作品（歌詞），また統計資料や意識調査の結果など多様な素材を取り上げて，生徒の興味・関心を喚起し，倫理的思索の動機付けになるように工夫した。
- 現代社会の倫理的課題を具体的に取り上げ，生徒が討論・調査・発表などの主体的な学習活動を通じて，解決の道について思索できるよう工夫した。

# 編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表，配当授業時数表)

受理番号	学 校	教 科	種 目	学 年
27-6	高等学校	公民科	倫 理	1～3学年
発行者の 番号・略称	教科書の 記号・番号	教 科 書 名		
81 山川	倫理 309	現代の倫理 改訂版		

## 1. 編修上特に意を用いた点や特色

青年期の諸問題を手がかりに，自己の在り方を把握させ，その上に立って「生きる力」をはぐくむことができるよう，充実した内容を目指した。その際，広く現在の社会を考え，またよい社会を築くための基本的な学習内容を，自己を確立する核としての基準となるよう記述することに配慮した。さらに，生徒にどのような価値を求め，その表現方法を考えることができるような手がかりを与え，将来にわたる社会をどのようにつくっていくか，主体的に学習することができるよう編修してある。

## 2. 対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容	該当箇所	配当 時数
<b>第Ⅰ部 青年期と自己の課題</b> 第1章 青年期と自己の探究 第2章 自己と他者 第3章 生命と自然との出会い	<b>(1) 現代に生きる自己の課題</b> この科目の導入として位置付け，生徒自身の課題を他者，集団や社会，生命や自然などのかかわりを視点として考えさせ，以後の学習への意欲を喚起すること。	5～24頁	3 2 1
<b>第Ⅱ部 人間としてのあり方・生き方</b> 第1章 人間としての自覚         第2章 世界の中の日本人	<b>(2) 人間としての在り方生き方</b> <b>ア 人間としての自覚</b> ギリシアの思想，キリスト教，イスラム教，仏教，儒教などの基本的な考え方を代表する先哲の思想，芸術家とその作品を，倫理的な観点を明確にして取り上げるなど工夫すること。 <b>イ 国際社会に生きる日本人としての自覚</b> 古来の日本人の考え方や代表的な日本の先哲の思想を手掛かりにして，自己の課題として学習させること。	25～116頁	16         17

<p>第Ⅲ部 現代社会と倫理</p> <p>第1章 現代社会を生きる倫理</p> <p>第2章 現代の課題と倫理</p>	<p>(3) 現代と倫理</p> <p>ア 現代に生きる人間の倫理</p> <p>倫理的な見方や考え方を身に付けさせ、自己の課題として考えを深めていく主体的な学習への意欲を喚起すること。</p> <p>イ 現代の諸課題と倫理</p> <p>アの学習を基礎として、学校や生徒の実態等に応じて課題を選択し、主体的に探究する学習を行うよう工夫すること。その際、イに示された倫理的課題が相互に関連していることを踏まえて、学習が効果的に展開するよう留意するとともに、論述したり討論したりするなどの活動を通して、自己の確立を促すよう留意すること。</p>	<p>117～203頁</p>	<p>19</p> <p>12</p>
		<p>計</p>	<p>70</p>